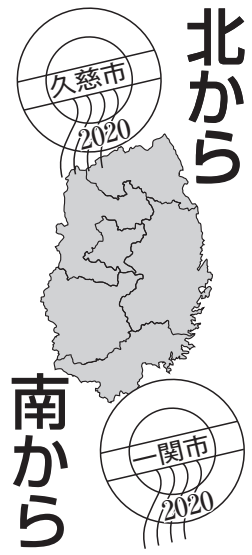


特色あるPTA



PTA・学校・地域が一体となった 防災意識の醸成

久慈市立久慈湊小学校PTA

久慈湊小学校は、海岸から2キロの久慈川沿いに立地している学校で、東日本大震災以降も、平成28年の台風10号、令和元年の台風19号と、校庭校舎への浸水被害が続いている。このような立地条件であるために、子どもたちの安心安全を守ることを最優先とし



地域の方が整備した山間部を通っての避難

て、PTA・学校・地域が一体となって、防災意識を高める活動に取り組んでいる。

中でも、毎年5月に行う津波を想定した全校児童の避難訓練は、引き渡しを含めた、高台の第3次避難場所への避難の訓練を行っており、災害時の避難を検証している。



名簿チェックによる受け渡しの実際

この訓練で重要なことは、実際に即して、避難解除が想定される時刻まで避難所で子どもたちが待ち、事前に登録した保護者に引き渡しが行われることである。災害発生時には、友人等に迎えを依頼し、被害にあった場合の更なる悲劇が予想されるが、長年続けている訓練により、PTA会員の理解が得られ、学校に登

PTA活動に広がりを作る

一関市立舞川中学校PTA

録した保護者が必ず迎えに来ることができていることは、とても重要なことである。久慈湊小学校は、今後校舎の移転が計画されている。移転についても子どもたちの安心安全を守るといふ観点を忘れずに、PTAと学校・地域が一体となって進めていきたいと考えている。
(PTA事務局 小室好司)

舞川中学校の今年度の生徒数は40名、PTA会員数は教職員を含めて34名という小規模校です。今年で創立73年となりました。舞川中学校は地区住民にとって大切な心のよ

りどころとなっており、保護者も学校や地域に対し強い思い入れをもってPTA活動に参加しています。現在の主な活動は、校地の環境整備作業、舞川小学校PTAとの合同実施による資源回収、地域の先輩をお呼びしての教育講演会などです。小学校PTAとの合同事業は本校PTAにとっては重要な意味合いをもち始めました。会員数の減少により、10



小中合同での資源回収です

にも貢献できているように思います。現在、舞川幼稚園PTAとの連携作りにも取り組み始めました。これから、それぞれのPTAの課題を共有し合いながら、みんなの力で解決する力をつけていきたいと考えています。
(事務局長 和賀達也)

編集後記

▲今まで誰も経験したことのない「コロナ禍」で、これまでの「当たり前」の見直しが求められ、定時社員総会も「みなし総会」という形式をとりました。▲後藤大平氏の「提言」は、子どもとふれ合う時間が増えたこの時期、大いに参考になると思います。▲PTA活動にも制限が加わるとはありますが、飯岡小や久慈湊小、舞川中のようにPとT、C(地域)が手を携えて活動を展開していくことを願っています。